

会 議 録

1. 会議の名称 令和５年度第１回協働推進委員会
2. 開催日時 令和５年１１月７日（火）１９時００分～２１時００分
3. 開催場所 熊取町役場北館３階大会議室
4. 議題
(１) 住民提案協働事業制度「団体提案型」の公開プレゼンテーション等
① つなぐ、育む、熊取農業
② くまとり新規就農塾（熊取町での新規就農希望者のための農業塾）
③ Market Kumatori（オリナスジカン VO,3）
(２) 委員会判定会議（非公開）
5. 公開・非公開の別 一部非公開
【一部非公開の理由】 委員会判定会議については、提案事業の採択・不採択の審査の公正かつ適切な意思決定を担保するため、当該情報は審議会等会議公開指針第３条第１号に該当すると判断し、非公開とした。
6. 傍聴者数 ２人（一般）、３人（事業所管課）
7. 審議等の概要
(１) 住民提案協働事業制度「団体提案型」の公開プレゼンテーション（１団体）、質疑（２団体）
実施にあたり、審査基準を確認のうえ、審査結果は町に提言を行い、町が事業実施の可否を決定後、後日郵送で通知することを説明した。
その後、委員と提案者による質疑応答を実施した【別添参照】。
(２) 委員会判定会議（非公開）
【審議結果】
上記①～③の「団体提案型」の提案について、採択となった。
8. 会議の情報
名称 協働推進委員会
根拠法令等 協働推進委員会規則
設置期間 平成２２年１２月７日～
所掌事項 住民提案協働事業の審査等及び協働のまちづくりの推進に関して町長から意見等を求められた事案に対する協議・検討及びそのほかの協働のまちづくりの推進に関すること
委員数 ６人

令和5年度 第1回協働推進委員会（R5.11.7）

■「団体提案型」公開プレゼンテーション 提案団体に対する委員からの質疑応答概要

□ ① つなぐ、育む、熊取農業

提案団体：わりかし若い百姓の会

【質問】 委員

- ・この活動をどう地道に伝えていくか、今後の展望はあるか。

【回答】 提案者

- ・わりかし若い百姓の会のメンバーは、ほぼ農協出荷をメインにしてる農家。
- ・農協出荷をしてしまうと、野菜を手取る人は、誰がその野菜を採っているか、わからないところがある。
- ・そこで、このイベントを通じて、「こういうものがこういう人たちで生産されているのだ」と、顔が見える形で、熊取農業というのをもっと知ってもらい、さらに農業を身近に感じてもらえるよう、事業を続けていければと考えている。

【質問】 委員

- ・自分が所属している団体で、ブルーベリー農園の経営をやっているので、コラボレーションしてもらえたら嬉しいが、そういったことも可能か。

【回答】 提案者

- ・会員の中にブルーベリーの苗木を販売してる農家がいるので、協力させてもらえるなら、是非一緒にやれたらと思っている。

【質問】 委員

- ・農協への出荷と、本事業で提供する野菜の関係や、事業経営の比率は。

【回答】 提案者

- ・大量に栽培している野菜は農協へ、少量栽培の野菜は直売所等に出荷しているところ。
- ・本事業においては、利益重視ではなく、イベントで農業を知ってもらおうという方に比重を置いている。
- ・農協への出荷や提供する野菜と本事業は、金額面で比較するものではなく、あくまでも熊取農業の啓蒙に比重を置いているものと考えていただきたい。

【質問】 委員

- ・くまベジ直売会では、熊取町でやっている野菜市やスイカ市のような取組を年4回やる、という認識でよいか。

【回答】 提案者

- ・年4回としたのは、会員がそれぞれ作っているメインの野菜が年4回のタイミングである程

度の品数が集まるという見通しがあったため設定したもの。

- ・それぞれの回で旬の野菜が提供できればと思っている。
- ・時期に合わせて、今まで植えたことない野菜も作って、たくさんの種類の野菜が揃うよう新たな挑戦もしたい。

【質問】 委員

- ・団体の平均年齢は。

【回答】 提案者

- ・一番若いのが 29 歳、上が 47 歳。平均すると 30 代半ば。

【質問】 委員

- ・新しい会員は入るのか。60 歳で退会となると今後減ってしまわないか。

【回答】 提案者

- ・農業を生業としている人たちが高齢化している現状があるが、活動を通じて新規就農者が増えていけばいいなと思っている。

【質問】 委員

- ・支出科目のうち、備品購入費と維持管理費は、それぞれどのような支出を予定しているか。

【回答】 提案者

- ・備品購入費は、イベントするにあたってのテントや鎌の購入費に充てる予定。
- ・維持管理費は、田を借りる費用や、田の管理をするための費用に充てる予定。

□ ② くまとり新規就農塾（熊取町での新規就農希望者のための農業塾）

提案団体：くまとり新規就農塾

【質問】 委員

- ・今年度実施中の事業の進捗は。

【回答】 提案者

- ・半農半 X コースに女性が 2 名入り、それぞれ農場にて実践で勉強されている。
- ・基礎コースには 5 名の受講者がおり、農業体験のような形で実施しているところ。
- ・まだ全て実施したわけではないが、農場での実習が 8 回、座学が 2 回という形で実施しようと思っている。
- ・上述の活動以外にも、YouTube 等で情報発信しており、近畿地方一円で、準会員という形で 55 名参加いただいている。この 55 名のうち実際に熊取に就農する人はいないが、いろんな人たちとも交流を持って、裾野を広げて就農する人が増えれば、という思いのもと、情報発信している。
- ・熊取町は、農業するのに適した環境があまりないため、本気で新規就農しようとする、か

なり難しいところがあるが、そこを逆手にとって、「小さな農業」で、半農半Xで農業をやってもらうという形を提案している。「年間 103 万円ぐらいの収入になるようなパートに行くのだったら、農業してみよう」といったような、家庭菜園の延長でできるような農業を提案している。

・新しい農業の形を熊取町から発信できたら、と思いながら活動をしているところ。

【質問】 委員

・先ほどプレゼンテーションをしていた、わりかし若い百姓の会とのコラボレーションなど考えているか。

【回答】 提案者

・「わりかし若い百姓の会」のように JA 出荷しておらず、また、作ってるものも、自然薯や春菊など、この地域の特産と少し違うものをつくっているため、交流がほとんどない。

【質問】 委員

・パートでの 103 万円あたりの売り上げといえ、どういう野菜を栽培するのか。

【回答】 提案者

・夏場は簡単に採れる野菜を軽く、冬場に冬の間ずっと採り続けられる野菜 3 品目を栽培し、年間 103 万程度の売り上げになるよう計画を組んで、実践している。

【質問】 委員

・こういった農業塾の取組は他市町村でもしているのか。

【回答】 提案者

・大きいところ言えば、富田林のきらめき農業塾。岸和田や泉南でも実施している。
・これらは本気で新規就農をする方に向けて、有償で実施されているが、本提案では、家庭菜園に毛の生えた程度農業をしたい方に向けても取っ掛かりやすいよう、無料で実施している。

【質問】 委員

・他地域の農業塾との関わりはあるか。

【回答】 提案者

・ある。自分が経営している自然薯畑を見学しにきてもらったこともある。

【質問】 委員

・前回の提案では報償費を計上していたが、今回は計上しないのか。

【回答】 提案者

・座学の講師は無償でお話してくれる人をお願いしようと思い、今回は計上しない。

【質問】 委員

・今年度の決算の見込みはいかがか。

【回答】 提案者

・正直使いきれなさそうだが、費用の総額としては今年度と同じだけの予算を組ませていただ

いた。女性受講者が多いため、女性が使えるような、小さめの耕運機などを購入して、女性の方を集めたく、備品購入費を今年度予算より多めに計上している。

【質問】 委員

- ・受講生に女性が多いとのことだが、どこに住んでいる方か。

【回答】 提案者

- ・熊取町の方が4名、堺市が1名。

③ Market Kumatori (オリナスジカン V0,3)

提案団体：Market Kumatori (オリナスジカン実行委員会)

【質問】 委員

- ・今年度実施中の事業の進捗は。

【回答】 提案者

- ・Market Kumatori のグループは熊取町での珈琲屋、アイスクリーム屋などの自営業が集まったグループ。
- ・熊取町の活性化を目的としたイベントを昨年11月23日第1回目として「オリナスジカン」という名前で、煉瓦館で実施した。
- ・熊取町のお店はもちろんのこと、お店のファンに熊取町に来ていただく狙いで、近隣の泉佐野や阪南市、羽曳野市や和歌山県、大阪市内など、町外でお店を営んでいる方にも出店いただいた。
- ・第1回目の報告としては、当日、雨天にもかかわらず、2,500人ほどのお客さんに来ていただいた。第1回目に見えてきた課題をクリアしながら、第2回目も第1回目と同じ11月23日に開催したいと思っている。
- ・第1回目との違いとして、中家住宅を使って、海外、東京など町外のアーティストに協力いただき、美術館のような形で古典芸能とも触れていただくような取組も予定している。

【質問】 委員

第1回目はどうだったか。

【回答】 提案者

- ・当日雨だったのでどれほどの方に来ていただけるか不安だったが、たくさんの方に来ていただけた。
- ・「どれだけ熊取町の方が来ていただくか」「熊取町をどれだけ知っていただくか」というのがテーマだったが、初めて熊取町を訪れたという来場者がかなり多かった。
- ・実際訪れてみて、こんな素晴らしい場所があったのだということを多くの方に言っていただけた。
- ・そういう意味では、町外の店舗にも関わっていただけたおかげで、町外からもたくさんのお客さん来ていただけたと感じている。
- ・熊取町をたくさんの方に知っていただけた、ということに対する対する手応えを感じた。

【質問】 委員

町外や海外からの来場者は、どちらから来られたのか。

【回答】 提案者

- ・すべての方にアンケートをとったわけではないが、SNS では、大阪市内や、神戸からわざわざ来てくださったお客さんがいた。
- ・また、第1回は観光大学の学生にボランティアに入ってもらった。
- ・観光大学は熊取にあるが、そのボランティアの方たちも煉瓦館が知らない人がほとんどだった。
- ・観光大学の学生、また、観光大学留学生のベトナム国籍の方々が、このイベントをきっかけに煉瓦館を知ってくれた。また、その方々の友人がイベントを訪れてくれたので、海外との交流にもつながっていくきっかけになったと感じている。

【質問】 委員

各店舗の売上はいかがだったか。

【回答】 提案者

- ・聞いていない。
- ・今年度の提案が採択されると、3年目となる。
- ・4年目以降も続けていけるよう、出店料を固定費ではなく、売り上げの10%という形にして、それを運営費に充てていきたいと思っている。それをする事で各店舗の売り上げが見えてくると思う。
- ・1回目の実施では、雨だったこと、集客が読めなかったことから、各店舗は、少なめに商品を用意されていたと思う。
- ・イベント11時からだったが11時半にはほとんどのお店が売り切れてしまって、お昼から来た人が昼ごはんがないということをよく聞いたので、今年はちょっと課題として午前と午後の飲食店を入れ替えるなどして工夫したいと思っている。

以上